

linitis plastica 型胃癌 その成り立ちと早期診断

中村 恭一, 馬場 保昌 著

消化器医をめざす医師にとっての必読書

半田内科医会名誉会長

新 海 眞 行

癌研究会附属病院病理部の中村恭一先生に病理の教示を願って、九州より上京された馬場保昌先生は、臨床内科医として胃 X 線二重造影法創始者の一人である熊倉賢二先生に師事するまでの約 2 年間 (1971～1973), 癌研病理部に所属され、そこでお二人は、切除胃の全割と検鏡に明け暮れておられました。その後、馬場先生が病理から内科に転科する際に中村先生から要望がありました。それは、臨床面からの胃癌組織発生の意義についての研究です。

馬場先生は転科してすぐ胃癌組織発生の観点から早期胃癌の X 線・内視鏡所見と切除胃の肉眼所見と組織所見との対比を行いました。そして、馬場先生が X 線的に見た陥凹型早期胃癌の組織型別肉眼形態の違いについて報告したのは、この全割症例の観察に基づいてなされた研究の一つです。すなわち、馬場先生は、IIc 型早期胃癌の肉眼所見と X 線・内視鏡所見との対比を癌組織型別に行ったところ、IIc 型粘膜内癌の典型例あるいは質のよい写真とされている X 線・内視鏡写真は未分化型に多く、それに反して、同じ条件下で撮影されているにもかかわらず、IIc 型分化型早期胃癌の多くは質の悪い X 線・内視鏡写真とされていることに気づきました。linitis plastica 型胃癌 (LP 型胃癌) は未分

化型癌ですから、このことは LP 型胃癌の早期発見に大きな味方を神はなされたと私は思っています。才に恵まれた馬場先生を愛弟子とされた中村先生、熊倉先生は共同研究者でもあり、人生のよき相談相手ともなっています。

『linitis plastica 型胃癌—その成り立ちと早期診断』という大書は、中村先生と馬場先生の出会があったからこそ、また、お二人のみに書くことが許されていたと私は考えています。実は、2011 年 1 月 22 日、半田医師会健康管理センターにて“胃 X 線診断へのアプローチ”のタイトルで馬場保昌先生に講演していただきました。その講演後、「中村恭一先生との共著で LP 型胃癌の書物が医学書院より今春出版される」と教えていただきました。

本書は大きく 2 部で構成されています。第 1 部「LP 型胃癌の病理」は、「スキルス胃癌と LP 型胃癌」「組織学的なスキルス胃癌の発生」「LP 型胃癌の原発巣は？」「LP 型胃癌の定義」「LP 型胃癌の成り立ち」「癌発生から LP 型胃癌完成までの経過時間」「LP 型胃癌の発生から完成までの発育進展過程」「LP 型胃癌への小径」「LP 型胃癌の頻度」「胃癌の構造—その中における“胃癌の三角”と“早期胃癌診断瀑布”と“LP 型胃癌への小径”」の 9 章、第 2

部「LP 型胃癌の早期診断」は、「LP 型胃癌臨床診断」「LP 型胃癌症例」の 2 章です。

臨床的に LP 型胃癌をより早期に発見し、診断するためには、胃粘膜における癌細胞の発生から、微小癌期、粘膜内癌期、前 LP 型胃癌期、潜在的 LP 型胃癌期、典型的 LP 型胃癌期に至るまでの各発育過程における形態変化を知る必要があります。本書では 31 例の LP 型胃癌症例が提示され、各病期の症例を肉眼的所見と X 線・内視鏡所見を交えてわかりやすく解説されています。初期病変の診断指標として、潰瘍を伴わない径 1 cm 以下の未分化型癌、IIc 型を標的病変とする必要があります。微小癌期に 4 症例を、粘膜内癌期に 4 症例を挙げ、X 線・内視鏡的な診断指標が丁寧に述べられています。

症例ごとに提示された X 線像は美学で、これぞ達人の芸です。微小 IIc では、X 線的には不整形バリウム斑と局所的な萎縮粘膜、内視鏡的には褪色粘膜と微小びらんです。小 IIc 型では、不整形の明瞭な粘膜陥凹であり、粘膜ひだの中断像を伴います。これらの所見に加えて、X 線的には顆粒状の凹凸面、内視鏡的には褪色中の発赤斑を指標とします。最終的には胃底腺粘膜領域の大きさ径 1 cm 以下の IIc 型胃癌を標的病変

とする必要があります。

“LP 型胃癌への小径”の病理組織学的な背景に，LP 型胃癌をより早期に発見するための X 線・内視鏡的所見を加えることによって，基礎と臨床が一体となっています。実際に有用な“LP 型胃癌への小径”という過程を考案された中村恭一先生，

馬場保昌先生の偉大さには感服しています。

本書の行間から「X 線と内視鏡との協力によってそれぞれの診断力を高めれば難題である LP 型早期胃癌の発見は可能」と私には読み取れました。現在，第一線で活躍する消化器医にぜひ読んでいただき，後を継

ぐ消化器医を，本書を活用して指導してほしいと思います。これから消化器医を目指す医師にとっても必読書となる一冊です。

●B5 頁288 2011 年 定価 15,750 円
(本体 15,000 円 + 税 5%)

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)